

腹膜透析

洛和会音羽病院
腎臓内科部長

原田 幸児 氏



Q 腹膜透析とは。

A 腹膜透析は、患者自身のおなかに透析液を入れ、おなかの膜(腹膜)を用いて血中の老廃物や不要な水分を浄化する透析療法です。24時間持続的に行う「CAPD」と、

就寝中に機械を用いて自動的に行う「APD」があり、いずれも患者自身が透析の操作を行います。

生活に合わせた透析法選択を

Q 導入と日常生活について。

A 腹膜透析導入時には短期間の入院が必要で、おなかに透析液の出入れをするためのカテーテルを埋め込む手術を行います。最近では、こ

就寝中に機械を用いて自動的に行う「APD」が、手術は腹膜透析を開始するときではなく、合併症の頻度を少なくするために、透析が開始されるより数カ月前に行われて

います。次に、患者や家族の方が腹膜透析の操作をできるようにするため、器具操作方法の指導や生活指導が行われます。腹膜透析の操作は、カテーテルの先端に透析液が入ったバッグをつなぐ交換を一日に4〜5回行い、1回のバッグ交換で30分〜1時間を要します。ただ、通院は月1〜2回程度で済むので、週に3回以上の通院が必要な血液透析に比べて自由時間が多くなるのが特徴

です。膜硬化症が発症し、治療困難な腸閉塞を誘発する可能性があるので、腹膜透析は永久に続けることができません。基本的には、およそ5〜8年で血液透析に移行していただくこととなります。そのほか、カテーテル位置異常やカテーテル感染症などの腹膜透析特有の合併症の可能性もあります。医師と相談のうえ、ご自身の生活に合わせた選択が必要です。

Q 合併症は。

A 長期間にわたって腹膜透析を続けていると、腹膜が固くなる被嚢性腹